

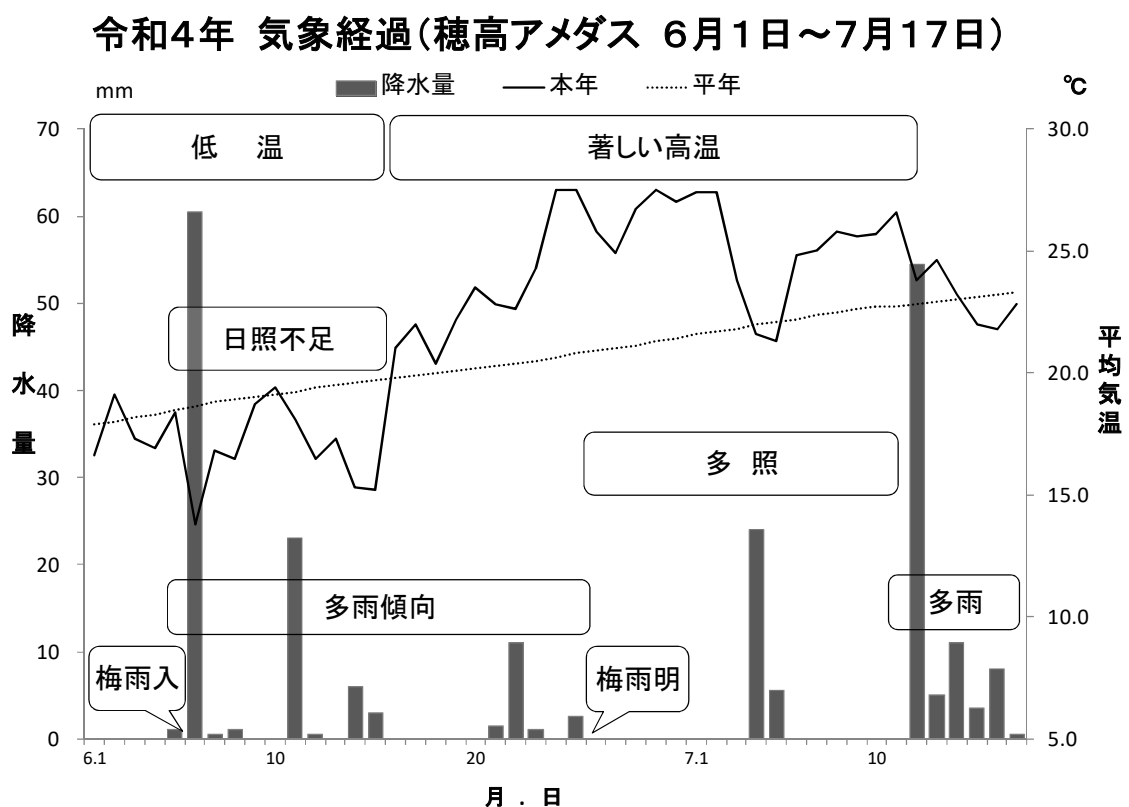
令和4年 作物技術普及情報 第13号 (水稻の生育状況・出穂予測等について)

1 気象状況

6月下旬以降、平年気温より2℃近く高い著しい高温で、日照量の多い状況が続いていました。

しかし7月12日以降は大気の状態が不安定で、降水量が多く平年並みの気温になりました。

今後の気温も平年並～高温が予想されています。



2 水稻の生育状況について

- 6月下旬以降の著しい高温の影響で、生育はかなり進んでいます。7月17日現在のDVIによる水稻生育予測では、コシヒカリで7日早と推定しています。

4月末～5月初旬植えの現地圃場では7月末から出穂期を迎えると思われま

す。あきたこまちは平年より4日早と推定していますが、高温が続いているため、実際の生育はさらに早まっていると思われま

す。4月末～5月初旬植えの現地圃場では飛び穂が見られています。

今後とも平年並～高温が予想されているため、生育はさらに早まるこ

- 標高別、田植え時期別の生育状況については、別添「松本地域における発育指数（DVI）による水稻生育予測」をご覧ください。追肥作業等にご活用ください。

今回は平年並版のみをご提供します（平年並と2℃高温の予測日の差が小さいため）。

安曇野市 豊科 標高550m 5月15日植(稚苗)の場合 (7月17日現在)											
コシヒカリ 稚苗	今後の 気温	幼穂長 2mm の 実測日	幼穂長 10mm の 実測日	出穂期 の 予測日	あきた こまち 稚苗	今後の 気温	幼穂長 2mm の 実測日	幼穂長 10mm の 実測日	出穂期 の 予測日		
	本年	平年並	7月10日	7月17日		8月2日	本年	平年並	7月3日	7月10日	7月25日
		2℃高	7月10日	7月17日		8月1日		2℃高	7月3日	7月10日	7月24日
	平年		7月16日	7月23日		8月9日	平年		7月6日	7月13日	7月28日
平年差	7日早(今後の気温が平年並みの場合)				平年差	4日早(今後の気温が平年並みの場合)					

注) 幼穂長2mm = 幼穂形成期

注) 幼穂長2mm = 幼穂形成期

3 葉いもち病、カメムシ対策（畦畔除草）について

- 梅雨明け後は高温・乾燥が続いていましたが、7月12日以降は気温や湿度が高い状況が続いています。

7月18日現在の葉いもち病感染好適条件の判定では、7月15～17日に県内の広い範囲で感染好適条件が出現しています。

これまで葉いもち病の発生は抑えられていましたが、今後は注意が必要な気象状況になっています。

常発地帯・多発したことのある圃場、苗箱剤の未使用圃場等では、圃場をよく観察していただき、発生状況によっては防除対策を講じてください。特に昨年発生した圃場は要注意です。

- 水田畦畔や水田周辺の雑草防除はカメムシ対策に有効です。すでに畦畔除草をされていると思いますが、未実施の場合はただちに実施するようにお願いします。

今後は薬剤によるカメムシ防除の時期を迎えます。今年は出穂期が早まっていますので、防除のタイミングを失しないようにお願いします。

4 大豆の湿害・雑草対策について

現在、小麦後大豆は概ね4葉～初生葉展開期です。播種後1か月間は、大豆の出芽～初期生育を確保し、効果的な雑草防除に最も重要な時期ですので、下記の点についてご留意ください。

(1) 湿害対策の徹底

7月12日以降の降雨による湿害と日照不足の影響で葉の黄化が目立ち始めました。

湿害対策は大豆の初期生育を安定させるのに最も重要で、湿害対策は干ばつ対策にもつながります。

明渠や排水溝はただ掘るだけでなく、水尻につながっているか・圃場外に確実に排水ができているか・を再度ご確認ください。

**** 湿害による葉の黄化 ****



(2) 雑草対策について

ほとんどの圃場で、除草剤処理より2週間位が経過しています。必ず圃場を観察していただき、除草剤の効果の確認をお願いします。

特に7月10日頃までに播種された圃場では、土壌が著しく乾燥した状況で除草剤が散布されているので、効果の確認を必ずお願いします。

残草状況によっては、茎葉処理剤の処理をご検討ください。雑草が大きくなりすぎると、茎葉処理剤の効果が十分に発揮されない場合がありますので、タイミングを失しないようお願いします。

5 そばについて

高冷地を除いた平坦地では、7月末から播種作業が始まると思われます。そばも湿害を受けやすい作物なので、必ず湿害対策を行うようにお願いします。

播種から開花期までの約1か月間は、そばの出芽～初期生育を揃え、生育を良好にするために最も重要な時期です。

圃場内で出芽ムラを生じさせずに、均一な出芽とすることが重要になりますので、下記の点についてご注意ください。

- 播種までに2回程度、丁寧な耕起を行い、圃場の雑草や前作の残渣を埋没させてから播種するようにお願いします（耕起が荒すぎると出芽ムラが生じやすくなります。また埋没できなかった雑草が再生して雑草害を生じることもあります）。

- そばの出芽・初期生育を揃えるため、適切な深度で播種するようにお願いします（播種深度が深すぎると出芽までに時間を要するため、出芽ムラを生じやすくなります。また浅すぎると干ばつ時に種子への水分供給が不十分になり、出芽ムラを生じやすくなります）。